

事業報告書

団体名：プロジェクト保津川

1. メニュー名	(1) スタート事業 (2) ステップアップ事業 (3) 市民連携事業
2. 事業名	みんなで調べて学ぶ亀岡の自然と文化
3. 実施場所	亀岡市内全域及び当団体事務所
4. 実施期間	平成29年4月1日 ～ 平成30年3月31日
5. 目的と課題	支援金申請書に書いた、申請事業の目的と設定した地域の課題を改めて記入してください。

現在、亀岡市内では急速に進む都市化の一方で野生生物の生息環境の悪化や、在来生物との関わりの中で育まれた地域文化の伝承が大きな課題となっている。我々が団体設立以来取り組んできた河川ごみ問題と同様に、こうした課題の背景には、市民の自然環境の変化に対する関心の低さが挙げられる。

こうした問題意識から、人々の環境に対する関心の高まりと今後の対策の基礎的資料となるデータ収集目指して市内の環境を市民参加型調査手法により明らかにすることとし、昨年度より亀岡みらいパースと連携してツバメ類の営巣状況を調査した。昨年度の調査では、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの3種類、合計389個の巣が確認され、市全体では一つの巣のヒナの数は平均3.97羽/巣(n=116)であることが確認された。(公財)日本野鳥の会が2013年に実施した「ツバメの子育て状況調査」の結果と比較すると、これは都市部の全国平均値(3.87羽)と比較すると多いものの、村落部(4.28羽)よりは少ない結果となり、市内の自然環境がやや悪化しつつあることがうかがえる結果となった。その原因として、餌場となる水田の喪失や新建材を利用した建物の増加による営巣の困難化によって生息場所を失いつつあることや、さらには、近年は糞害を嫌い、ツバメの人家への営巣そのものを嫌う家庭が増えていることなどが考えられる。

言うまでもなく、こうした課題は全国的に生じている問題であると同時に、生物多様性保全の観点からも国際的にも緊急度の高い重要な課題でもあり、特に水田やため池を含む良好な水辺空間の保全や生き物をあたたかく見守る風土の情勢など地域レベルでの市民的取り組みも不可欠である。その実現のためには、基礎的なデータの蓄積が不十分であるものの、それには時間を要するため、市民的な問題の認知とその解決のための関心の高まりが不可欠である。

本事業では、こうした課題の解決に向けて取り組む。

6. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(実施スケジュール、会場、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など)
---------	---

本事業では、「100年先も自然と共存していくまちづくり」をテーマに、それにつながる活動として、広く市民参加型の自然環境調査を実施することで市内の現況を把握するとともに、その保全策を講じる。具体的には、以下の取り組みを実施した。

<亀岡ツバメ調査>

調査票の配布およびデータの回収 (5月～8月)



チラシの配布 (亀岡市役所)

亀岡市内におけるツバメの営巣状況を調べるために、ツバメが産卵し始める4月以降に、調査協力依頼のプリントを市内の全小中学校、幼稚園、保育園、自治会、各公共施設などを通じて配布した。また、当グループメンバーによる個別調査や地元の野鳥愛好家に協力を依頼して調査を実施し、データを収集した。さらに、Webフォームからの報告も可能にし、調査協力者の利便性の向上を図った。

この結果、今年度は2016年5月～8月の間に、合計340箇所の営巣地が確認された。亀岡市内で確認されたツバメは3種類であり、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメの巣が見つかった。昨年度の調査ではヒナの数わかっている巣は一昨年並みの22個に留まった(2015年度23個、2016年度116個)。市全体では一つの巣のヒナの数は4.2羽/巣となった。なお、これは、巣立ち前のヒナ

または巣立ったヒナの数である。(公財)日本野鳥の会が2013年に実施した「ツバメの子育て状況調査」では、巣立ちヒナ数と都市化との関係进行分析し、村落エリアでの巣立ちヒナ数が4.28羽に対し、都市部では3.87羽と都市では巣立ちヒナが少ないことが報告されている。また同調査では、巣立ちヒナ数は、首都圏での郊外では4.4羽、近郊で3.9羽、都心で3.5羽という結果が報告されている。今年度は、曾我部町などから多くの報告があったこともあり、村落部のデータに近いことがうかがえた。

<フン受けの試作・制作> (9月～1月)

NPO法人バードリサーチの協力のもと、糞害を防ぐフン受けを試作及び制作(200個)した。なお、配布についてはヒナの孵化後、5月ごろをめぐりに市内自治会および不動産事業者などを通じて配布する。また、事業者などへの聞き取り調査では、来店客の通行する場所を避けて営巣してほしいという声も多かったため、巣を作る場所を誘導できる人工巣もあわせて試作(3個)した。人工巣については今後実証実験を行う予定である。

<シンポジウム> (12月16日)

本事業では、「100年先も自然と共存していくまちづくり」をテーマに、それにつながる活動として、広く市民で自然環境調査を実施し、市内の現況を把握するとともに、市民的な議論を深め、自然環境の保全策を講じることをめざし、以下の取り組みを実施した。

まず、河川空間や水田、ため池など良好な水辺・湿地環境の状態を表す代表的な指標生物であるツバメの亀岡市内における巣やねぐらの位置情報の



提供を、学校や自治会の協力のもと、市民に呼びかけ、得られたデータを地図にまとめた。調査では、計 336 箇所のツバメの営巣状況に関する情報が寄せられた。さらに、亀岡の豊かな自然の価値を再確認し、生き物との共生をどのように実現するのか、シンポジウムを開催して議論を深めた。シンポジウムでは中貝宗治氏（兵庫県豊岡市長）の基調講演のあと、桂川孝裕氏（亀岡市長）、島田久仁彦氏（K.S. International Strategies C.E.O）、多胡麻衣氏（亀岡子育てネットワーク代表理事）らによるパネルディスカッションを実施し、「ツバメ“も”子育てしやすいまちづくり」の実現に向けた議論を深めた。なお、当日の参加者は 60 名であった。

7. 成果と課題

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

本調査では、調査協力依頼のプリントを市内の全小中学校、幼稚園、保育園を通じて配布するとともに、インターネット上でも調査協力者を募った。新しい試みとして昨年度の facebook の広告機能の活用に加えて、Twitter や Line@も活用して調査の告知に務めるとともに、ファクスだけではなく、Web フォームも設置して、スマートフォンなどからも容易に情報が提供できる仕組みを整えた。この結果、昨年度まではデータの少なかった篠町などの新興住宅地エリアや曾我部町からも多数の情報が寄せられ、亀岡市内のツバメの営巣状況をより詳細に把握することができた。また、国道 9 号線西川橋の橋桁にコシアカツバメの集団繁殖地（計 57 個の巣が確認された）が新たに確認されるなどの成果もあった。

今回の調査では調査協力者の自宅のツバメの巣の報告も多くあったが、特に篠町の新興住宅地では、せっかく営巣してもヘビなどにより巣立ち前のヒナが襲われたという情報が多く寄せられた。そのため、NPO 法人バードリサーチ（東京）とも協議して、糞害対策として計画していたフン受けの形状や設置方法についてもヘビ対策も可能なものとする改良を加えた。

一連の成果をもとに開催したシンポジウムでは、基調講演としてコウノトリの野生復帰に取り組む兵庫県豊岡市の中貝宗治市長を招聘し、豊岡におけるコウノトリの野生復帰の取り組みや、地域の環境保全・経済活性化政策についてご紹介いただいた。現在は地域のシンボルとなっているコウノトリであるが、野生復帰に取り組み始めた当初は、市民の間では稲を踏み倒す害鳥という意識すらあり、そうした中から住民の理解と協力を得られるようになるまでの取り組みの過程は、今後の我々の取り組みにも大いに参考になるものであった。

一連の事業を通じて、これまでの当団体の主催する環境関連イベントとは異なる参加者層を開拓することができ、支援者の獲得に繋がったことも大きな成果であった。ただし、チラシによる情報提供を中心としたツバメ調査の展開は、費用対効果という意味では依然として課題が残っている。

8. 今後の展開	事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
<p>ツバメ調査は、まだ2年目の一般公募型の市民参加型環境調査であり、SNSを活用した調査協力の呼びかけや、市内各学校・幼稚園・保育園などへのチラシ配布などを通じて、これまでアプローチが十分でなかった層への呼びかけを行うことができた。昨年度に引き続き貴重なデータが多数集まり、またそれらを活用した事業を実施できた。しかし、今後の事業の継続には、亀岡みらいパースの中心メンバーの市外での就職などの環境の変化もあり協力体制の見直しが必要である。</p> <p>また、目標としていた500箇所の営巣状況の確認には届かず、地域的な偏りも依然として大きいままである。この点については、近年、急速に普及しているスマホアプリ（iNaturalistなど）の活用など、より簡便かつ低コストでの情報収集手段の確立が課題である。</p>	
9. 協働の効果	<p>今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。</p> <p>※市民連携事業に関わらず、他団体との関わりがあった場合は記入してください。</p>
<p>今年度の調査では、京都学園大学や篠町自治会の協力もあり、特にこれまで情報が少なかった曾我部町や篠町一帯での情報が多く集まった。しかし、前述の通り、連携団体である亀岡みらいパースの運営体制の変化により、協力体制の見直しが必要である。</p> <p>なお、今年度試作したフン受けについてはツバメの巣作りが完了し、ヒナがある程度大きくなった5月ごろに（公社）京都府宅地建物取引業協会第5支部の協力のもと、配布する予定である。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

K A M E O K A

亀岡

どなたでも
参加できます！

調査期間

2017年
6月～8月

ツバメ調査

2017



昨年は 389 個の巣を確認することができました。
みなさんが寄せてくださる情報で、
亀岡市のツバメの巣の分布を知ることができます。
もしわかれば巣から何羽ひなが巣立ったかについても
ご記入いただけますと、亀岡のツバメの子育てのしやすさを
知る手がかりになります。
ぜひ調査にご協力ください！

● 亀岡でみられるツバメ

ツバメ



巣の形はお椀型。民家の軒先に
に作ることが多い。

コシアカツバメ



巣の形はとっくり型。大きな建
物に作ることが多い。

イワツバメ



巣は天井にくっつくように作
る。橋の下に作ることが多い。

調査 方法

- 1 ツバメの巣を見つける
- 2 裏面の調査用紙に必要なことを記入する
- 3 調査用紙を郵送か FAX、メールで送る

< 送り先 >

〒621-0804

京都府亀岡市追分町谷筋 37-21 ふらっと HOUSE
特定非営利活動法人プロジェクト保津川 宛
FAX 0771-20-2569

✉ tsubame.kameoka@gmail.com

詳しくはホームページをご覧ください

<http://hozugawa.org>



「プロジェクト保津川」

問い合わせ

☎ 0771-20-2569

☎ 080-4761-3385

✉ tsubame.kameoka@gmail.com

主催 亀岡みらいパース・特定非営利活動法人プロジェクト保津川

後援 亀岡市 亀岡市教育委員会 (申請中)

この調査は、京都府地域力再生プロジェクト支援交付金、亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の助成金により実施されています

写真：八木昭さん ((公財) 日本鳥類保護連盟 京都)

亀岡ツバメ調査 2017 調査用紙

- 1 調べた日 2017年 月 日 () ※2つ以上の巣を見つけた場合は、それぞれ調査用紙をわけてください。
- 2 ツバメの種類 (○をつけてください)
ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメ・わからない
- 3 巣の状態 (○をつけてください)
巣づくり中・親がすわっている・ヒナがいる (羽)・ヒナが巣立った (羽)
- 4 巣の場所 住所 (できるだけ詳しくお願いします。調査結果をまとめるときは、個人の家が特定できないようにして表示します)
亀岡市 町

5 巣の場所の詳しいデータ

①地図 (目印になる場所と巣をかくてください <例>「○○小学校の西側の家」など)

②緯度・経度 (わかれば書いてください)

緯度： _____

経度： _____

調べ方

紙の地図、スマートフォンのアプリ、パソコンなどで調べられます。例えば google の地図では、知りたいポイントでマウスを右クリックして「この場所について」というのを選ぶと、緯度経度が画面に表示されます。ガレリアかめおかは、緯度 35.014435、経度 135.566727 です。

6 調査をして気づいたこと、疑問に思ったこと (あれば)

7 調査をした人について (差支えなければご記入ください)

名前： _____ (学校名： _____ 学校 _____ 年)

FAX 番号またはメールアドレス：
(お預かりした個人情報は、今回の調査に関連した連絡にのみ使用します)

メ切 2017年8月31日 (木)

〒621-0804
送先 郵送 京都府亀岡市追分町谷筋 37-21 ふらっと HOUSE 特定非営利活動法人プロジェクト保津川 宛

FAX 0771-20-2569

メール tsubame.kameoka@gmail.com

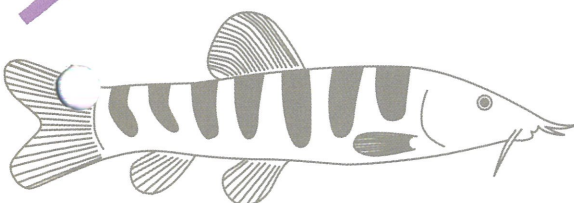
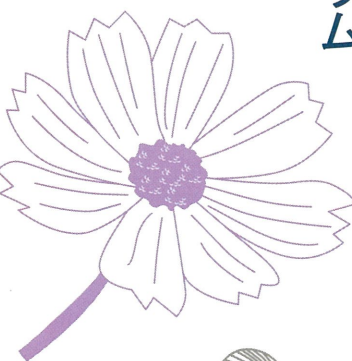
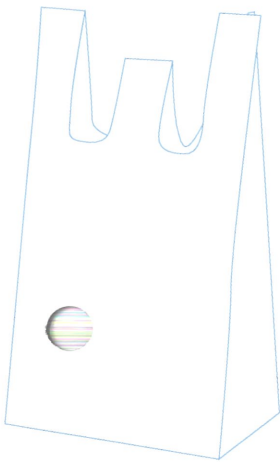
※メールの場合は調査用紙をスキャンして添付するか、内容を本文に書いてお送りください

プロジェクト保津川設立10周年記念

川から考える、 みんなの未来。

2017
12/16
[SAT]
13:00-16:30
入場無料

川の文化と豊かな生態系を育んできた亀岡で
環境保全と経済発展を両立させたまちづくりを
市民みんなで考えるシンポジウム



日程：2017年12月16日(土曜日)
場所：亀岡市役所 1F 市民ホール
主催：特定非営利活動法人 プロジェクト保津川
後援：亀岡市
助成：京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金
亀岡市支えあいまちづくり協働支援金

**キッズ・授乳
スペース**

無料でご利用
頂けます



SCHEDULE

13:00 ~ 開場

13:30 ~ 「コウノトリと共に生きる～豊岡の挑戦～」
豊岡市市長 中貝宗治さんによる基調講演

14:30 ~ ティーブレイク & フリーディスカッション
パネリストと参加者の皆さんで美味しいお茶とお菓子を囲んで意見交換会。
※お茶代として別途100円必要です。

15:00 ~ パネルディスカッション
「川から考える、みんなの未来。」をテーマに、
亀岡のまちと保津川のこれからを皆さんと考えます。

16:30 終了



PANELIST & COORDINATOR



豊岡市長
中貝 宗治

昭和29年11月4日、兵庫県豊岡市生まれ。兵庫県豊岡市長。好きな言葉は「夢はでっかく、根は深く。」「願うこと、願い続けること、投げ出さないこと」



亀岡市長
桂川 孝裕

昭和38年2月10日、岐阜県東白川村生まれ。京都府亀岡市長。好きな言葉は「チャレンジ。」「ピンチをチャンスに！」



KS International Strategies CEO
国際交渉人・経済産業省参事
島田 久仁彦

不条理に傷つけられる人を一人でも多く救いたい」「子供たちが笑顔で過ごせる世界を作りたい」と願い、日々、いろいろな仕事に従事しています。



NPO 法人亀岡子育てネットワーク
理事長
多胡 麻衣

1999年、生まれ育った北摂のニュータウンから亀岡へ。子どもたちの笑い声があちこちで響くまちになればと活動中。高1と中1の娘の母でもあります。



NPO 法人プロジェクト保津川
代表理事
原田 禎夫

保津川をこよなく愛し、毎月クリーンアップ活動を行っているほか、大学でも河川の環境や水運文化を研究しています。自他共にみとめる川バカ！

お問い合わせ

特定非営利活動法人 プロジェクト保津川

〒621-0804

京都府亀岡市追分町谷筋 37-21 ふらっとHOUSE

TEL : 0771-20-2569 FAX : 0771-20-2569

Google
YAHOO!

プロジェクト保津川

検索



公式サイト
hozugawa.org



ラインアカウント
pkp1669g



フェイスブックアカウント
Project.Hozu.River



ツイッターアカウント
projecthozugawa